



当社の個人情報保護の取り組みは、一般財団法人日本情報経済社会推進協会より個人情報保護の体制や運用状況が適切であると認定を受けています。今後も個人情報の取得・保護における細心の取り扱いを徹底して参ります。



当社は2014年4月に国連グローバル・コンパクトに加入しました。社会の良き一員として、持続可能な成長を実現し、本業を通じて社会に貢献する「事業と一体となった価値創造型CSR」を積極的に推し進めています。

CSRコミュニケーションレポート 2019

笑顔のために
これまでも、そしてこれからも続けていく
アデランスの取り組み

外部団体および企業とのコラボレーション



JHD&C
Japan Hair
Donation & Charity
Nonprofit Organization

団体の活動に賛同し、計測等の場として当社店舗の提供やウィッグの製作をサポートしています。



日本毛髪科学協会

毛髪と皮膚についての正しい知識をお客様へお伝えできるように、公益社団法人日本毛髪科学協会に加入し、社員への毛髪診断士の資格取得の推進に取り組んでいます。

毛髪診断士は公益社団法人日本毛髪科学協会の登録商標です。



経営倫理実践研究センター

企業の経営倫理を実践研究するわが国初の産学協同の専門機関である一般社団法人経営倫理実践研究センターに参加し、経営倫理に関する組織体制の強化に努めています。



がん患者の生活をサポート

株式会社 **VOL-NEXT**

患者様が安心して、医療用ウィッグをご利用できる体制を整えるため、がん患者サービス事業会社であるVOL-NEXT社による医療接遇講習を実施しています。



ツバルの森

ツバルの森を通じて、日本国内山間部の森林再生活動に取り組んでいます。

このマークは、ツバルの森の植林の利用を表すマークです。



～みんなでひとつつながろう～
OneWorld プロジェクト

「One World プロジェクト」(協力/公益財団法人日本対がん協会、後援/J-CAN)の活動に賛同し、東日本大震災で被災された、がん患者様のウィッグの「お手入れ支援サービス」を提供しています。



日本毛髪工業協同組合

毛髪業界が健全に発展し、お客様からの信頼を得られるように、業界団体「日本毛髪工業協同組合」の運営に取り組んでいます。



日本フィランソロピー協会

市民・団体・企業によるフィランソロピー(社会貢献)を啓発、啓蒙する活動に賛同しています。



国際ユニヴァーサルデザイン協議会

ユニヴァーサルデザインのさらなる普及と実現を通して、社会の健全な発展とくらし創りを目指す国際ユニヴァーサルデザイン協議会の理念が、当社の事業の根底にある「弱者を置いていかない」という概念と一致し、同協議会の活動に賛同しています。



さくら並木ネットワーク

2011年の東日本大震災・大津波の到達地に桜を植え、津波被害を伝承する桜並木を植樹し、東北地方の復興支援に協力しています。



しずおか未来の森サポーター

「しずおか未来の森サポーター」として静岡県の豊かな森林づくりをサポートしています。



書道家
永田 紗戀 様

「小さな芽が出て、その芽がきっかけで、新しい物事が起こり始めるというイメージです」毎年楽しみにしている表紙タイトルは、分厚い本をゆっくりとめくるような、そう、それは物語の次の章を待ちわびるような想いに似ています。伝えられた言葉は「萌芽」でした!私にとっては7冊目の表紙作品。一年前に描いた「芽生え」は緑いばいに描きました。そこから繋がっていく瑞々しい太陽のようなオレンジの笑顔をそっと咲かせた作品が選ばれました。私は毎年、作風が変化してしまう傾向にありますが、この表紙は昨年描いたものを基本に書体や絵のタッチを揃え、言葉に似合ったアレンジをプラスするようにしています。それは、毎年このレポートを読んでいると進化の中にある、しっかりと変わらない情熱と優しさを感じるからなのです。この終わりのない素晴らしい物語と一緒に歩めていることを心から光栄に思います。



トップメッセージ

グローバルウェルネスカンパニーの実現

男性用オーダーメイド・ウィッグの専門店として日本で創業した当社は、現在では、国内だけでなく、アメリカ・ヨーロッパ・アジアなどの海外でも事業を行う、男性用・女性用ウィッグ、毛髪移植、ヘアシステムなどのトータルヘアソリューション企業となりました。

さらに、2018年に創立50周年を迎えたのを機に、従来の事業領域から毛髪・美容・健康のウェルネス産業への展開を強化していきます。

活動地域は、現在19の国と地域となり、約6,600名の社員がグローバルな活動を広げています。それにとめない、企業としての社会的責任にもグローバルな視点が不可欠となっています。

「お客様の毛髪に関するお悩みを解決したい」という思い、お客様に喜んでいただく商品作り、お客様へのおもてなしの心という、当社の創業精神を大切に、その精神を適正な形で発展させることが当社のCSRであり、しっかりとしたコンプライアンスを事業の基盤に置かなければならないと考えております。

「世界のブランド アデランス」という夢を実現するため、社会的価値の新たな創造に挑戦してまいります。



株式会社アデランス
代表取締役会長
ファウンダー（創業者）
根本 信男

株式会社アデランス
代表取締役社長
グループCEO
津村 佳宏

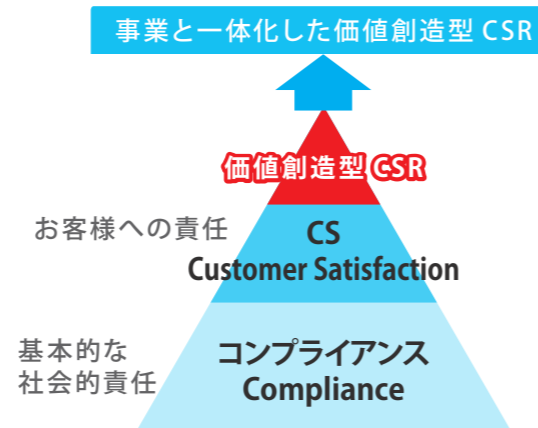
経営理念

私たちアデランスグループの最大の使命は
毛髪・美容・健康のウェルネス産業を通じて
世界の人々に夢と感動を提供し
笑顔と心豊かな暮らしに貢献することです

私たちが目指すもの
「最高の商品」
「最高の技術と知識」
「心からのおもてなし」

アデランスのCSRについて

アデランスグループでは、CSRへ取り組むことの意義を「健全で持続的な企業成長を目指すこと」という成長ドライバーにすることで事業との一体性を明確にし、本業を通じたCSRと位置づけたことにあります。そうした活動の根幹には、「自社の強みを社会で活かす」ことがあります。



会社概要

商号：株式会社アデランス
(英文名称：Aderans Company Limited)
本社：〒160-8429 東京都新宿区新宿一丁目6番3号
設立年月日：1969年（昭和44年）3月1日
資本金：129億円

グループ会社数：68社（2019年4月末現在）
※非連結グループ会社、休眠会社を含む

店舗数：国内 513店舗、海外 305店舗
(2019年4月末現在)

その他詳細は当社Webサイトをご覧ください。
<https://www.aderans.co.jp/corporate/company/>

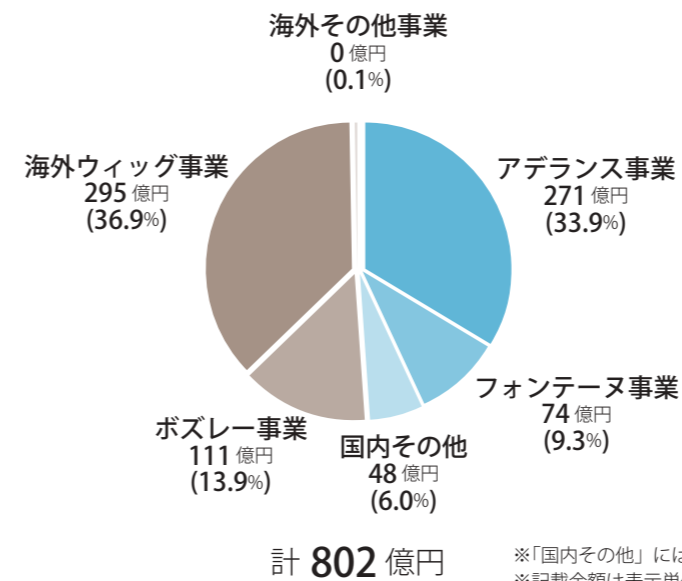
役員・監査役 (2019年6月1日現在)

取締役	
代表取締役会長	根本 信男
ファウンダー（創業者）	
代表取締役社長 グループCEO	津村 佳宏
取締役専務執行役員	古川 政明
海外事業本部、生産本部各担当	
取締役専務執行役員	陰山 昌利
国内事業本部、アジア営業部各担当	
社外取締役	高野 一彦
社外取締役	山本 礼二郎
社外取締役	山崎 壯

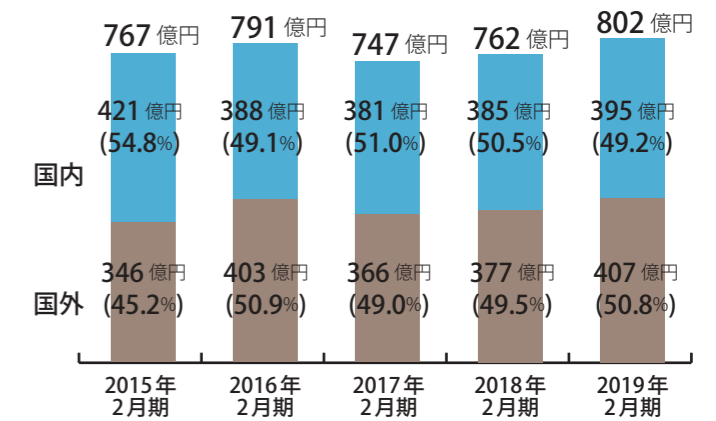
監査役	
常勤監査役	關 桂三
社外監査役	宮川 和大
社外監査役	関 善之

業績ハイライト（連結ベース） (2019年2月期)

セグメント別売上高



地域別売上高



※「国内その他」には、美材ルート事業、医療事業、EC事業、ハイネット社等が含まれています。
※記載金額は表示単位未満切り捨て、比率は少数第一位未満を四捨五入で表示しており、合計が一致しない場合があります。

世界19の国と地域、68社のネットワークでグローバルに事業を展開しています。



グループ会社一覧については下記の当社Webサイトをご覧ください。
<https://www.aderans.co.jp/corporate/company/group.html>

店舗数 (2019年4月末現在)

国内	513 店舗
アデランス	
レディスアデランス	167 店舗
フォンテーヌ	231 店舗
病院内ヘアサロン	31 店舗
その他	84 店舗
国外	305 店舗

地域別社員数 (2019年5月末現在)

国内	2,792 名
国外	3,822 名
計	6,614 名

沿革

アデランスは、1968年に男性用オーダーメイド・ウィッグ専門店として創業以来、「お客様の毛髪に関するお悩みを解決したい」という思いで、常に新しい価値を創造し続けてきました。

会社紹介

特集

象徴的な活動



テレビCMをスタート。
男性用ウィッグの存在を
社会に広める

1972年



男性用ウィッグ専門
「個人商店アデランス」を創業

1968年



装着方法に革命を起こした
ワンタッチ商品「AQ-15」を発売

1976年



全面人工皮膚のウィッグ
「AS-1」の販売を開始

1974年

注)写真は「AS-3」



全国技術競技大会を開催

1980年



型取り(フィッター)を開発

1979年



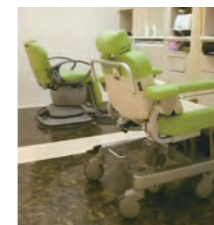
文化芸能活動が大きく加速
スタジオAD誕生

1985年



タイ工場
ISO9001/ISO14001取得

1999年



病院内ヘアサロンの
1号店をオープン

2002年



世界初の国家基準化
医療用ウィッグJIS規格制定

2015年

世界のブランド
アデランスへ

ウェルネス産業へ事業領域を拡大

グローバル化

製販一体の総合毛髪企業へ

創業期

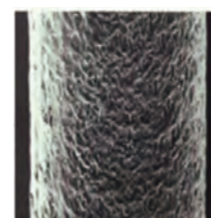
1978年
子どもたちに笑顔
「愛のチャリティ」スタート



1983年
人工毛髪の研究開始



1991年
人工毛髪の商品化
「サイバーヘア」商品を発売



2009年
ウィッグの回収と自然を結ぶ
「フォントヌ緑の森キャンペーン」



2013年
輝く女性への応援を開始



2016年
美容領域へ進出
ビューステージブランド誕生



2017年
フォントヌの全国ロープレ・
スタイリング大会を初開催



アデランスグループの主な変遷

- 1969年 | アデランス社を設立 (1968年創業)
- 1985年 | フォンテーヌ社をグループ化 (1970年創業) (2003年アデランス社と統合)
- 1986年 | アデランス・タイ社を設立
- 1990年 | アデランス台湾社を設立
- 1992年 | ワールド・クオリティ社を設立

- 1992年 | アデランス・フランス社、アデランス・ドイツ社、アデランス・ベネルクス社をグループ化
カマフレックス・フランス社(1952年創業)、
ヴァン・ノイエン社(1925年創業、1994年グループ化)、
カマフレックス・ドイツ社(1966年創業)、
モンフェア・モデーヌ社(1986年創業)、
カマフレックス・ベルギー社(1962年創業)
- 2001年 | ボズレー社をグループ化
1974年創業、ボズレー・メディカル・インスティテュート社(1989年創業)、ボズレー・メディカル・カナダ社(1997年創業)を2001年にグループ化しボズレー社に統合、エム・エイチ・アール社(1999年創業、2007年グループ化)

- 2002年 | アデランス・シンガポール社
アデランス・フィリピン社を設立
アデランス・ユーカー社をグループ化
トレンド・ヘア・サプライズ社(1964年創業)
- 2005年 | アデランス上海社を設立
アデランス・スウェーデン社をグループ化
カール・エム・ルンド社(1900年創業)
- 2009年 | アデランス・ヘア・グッズ社をグループ化
インターナショナル・ヘアグッズ社(1968年創業、1987年グループ化)、ルネ・オブ・パリ社(1971年創業、1989年グループ化)、ニュー・コンセプト社(1991年創業、1998年グループ化)、ジェネラル・ウィッグ社(1963年創業、1998年グループ化)、アデランス・リテイリング社(2001年創業)を統合
- 2013年 | ヘアクラブ社をグループ化
ヘアクラブフォーメン社(1976年創業、2003年ヘアクラブ社と統合)

- 2014年 | アデランス・ラオス社 (現:ラオ・クオリティ社)を設立
- 2016年 | ハイネット社をグループ化 (1960年創業)
ライツフォル社をグループ化 (2003年創業)
- 2017年 | アデランスメディカルリサーチ社を設立
アデランス香港社を設立
- 2018年 | アメコア社をグループ化(1980年創業)
エステティカ社をグループ化(2005年創業)
アデランス・トータルヘアソリューション・イベリア社を設立
アデランス・トータルヘアビューティソリューション(タイ)社を設立

国内事業

アデランスグループでは、「私たちが目指すもの」として「心からのおもてなし」を経営理念の一つとして掲げ、お客様の満足と信頼を高めていくために、グループ一丸となって取り組んでいます。

アデランス事業

トータルヘアソリューションブランド アデランス

アデランスのサービスは、まず初めにお客様の髪や頭皮に関するご相談を丁寧に伺うところから始まります。お客様の悩みやご希望のヘアスタイルに応じて、お客様の髪の色や頭の形に合わせてつくる「オーダーメイド・ウィッグ」、自髪を活かして部分的に増やす「増毛商品」、頭皮環境を整える「育毛サービス」や最新の増毛技術「ヘアシステム」まで、お客様の魅力を最大限に引き出す商品・サービスをご提供します。また、定期点検やウィッグメンテナンス、ヘアカット、ヘアケアなど、アフターサービスも充実させています。(2019年4月末現在、全国167店舗展開)

ADERANS

アデランス

「髪を増やす」「髪を育てる」という2つのアプローチ



増毛サービスの「ヘアパーフェクト」、自髪を活かして人工毛髪を結びつける増毛商品「ピンポイント®」や「バイタルEX」、育毛商品「ヘアプロ」まで幅広いラインナップ。米国ヘアクラブ社のシステムをアレンジした会員制定額プラン新増毛「フリーダム」も発売。男性のあらゆる髪の悩みにお応えべく進化し続けています。

女性向けオーダーメイド・ウィッグブランドとして長くご愛顧いただいている「イヴシリーズ」は、グループで培った技術やノウハウをもとに、女性の髪のお悩みを解決しおしゃれを楽しんでいただく商品をご提供しています。また、「大人のエクステ」として「ヘアアップα」や頭皮をケアしながら美しい髪を育む「ベネファージュ」シリーズも展開しています。



オーダーメイド・ウィッグから
ビューティヘア&スカルプケアまで

フォンテーヌ事業

手軽に楽しめるレディメイド・ウィッグをバリエーション豊かにご用意

全国230の百貨店、直営店、大手流通チェーンで、レディメイド・ウィッグを提供しています。(2019年5月末現在)百貨店内の店舗、直営店では、人毛と人工毛髪をミックスして、ハンドメイドで仕上げた「ヴァラン」、個性豊かな色使いのスタイリッシュヘア「ロロック」、気軽にボリューム感をプラスするトップピース®など、高品質でファッション性の高いレディメイド・ウィッグをご用意しています。

広がり続けるフォンテーヌブランド

より多くの女性にウィッグを楽しんでいただきたい。そんな想いからあらゆるファッションシーンで楽しんでいただくためのブランドを、多様な流通拠点から発信しています。全国の百貨店や直営店などにおいてフォンテーヌブランドの魅力を伝えています。また、近年は普段使いに気軽にご利用いただける「スワニー byフォンテーヌ」、欧米を中心に海外の女性に愛されてきたウィッグブランド「ルネ・オブ・パリ」を大型スーパーやショッピングモールを中心に展開。さらに、エンターテインメント性を重視したパリ発祥のウィッグブランド「アニーダブレイ」も仲間入りし、ウィッグの楽しみ方を提案しています。

FONTAINE



その他国内事業

国内グループ会社

ハイネット社

1960年に創業し、2016年にグループ入り。百貨店を中心に展開するレディメイド・ウィッグ「ハイネット」から10~20代向けファッション・ウィッグの「ナバーナ・ウィッグ」、ビューティ商材を扱う「ナバーナ・ビューティ」、おしゃれを彩るアパレルの「イベット」まで幅広く展開しています。



アデランスメディカルリサーチ社

2017年に設立し、グループ入り。医療機関向けの機器や医薬品などの販売及び、クリニック開業・運営支援並びにコンサルティング事業を行なっています。



ライツフォル社

2003年に設立し、2016年にグループ入り。専属工場を持ち、主に女性用ウィッグ、医療用ウィッグの製造販売を行なっています。その他、ヘアサロン(美容ルート)へのご提案、WEB販売も行っています。



パルメッセ社

1985年に設立し、グループ入り。不動産業、損害保険代理店業、生命保険代理店業を行なっています。ビューティ商材に関する事業まで拡大しています。

医療事業

病院内にヘアサロンを32店舗(2019年8月末現在)開設。患者様の身体的負担を考慮した移動式理美容椅子を導入し、頭皮にやさしいヘアケア商品を使用した一般理美容サービス(シャンプー、ヘアカット)に加えて、医療用ウィッグ「ラフラ®」を提供しています。また、患者様のQOL向上に貢献するため、ネイルやネイルオイルの提供、及びグンゼ社の低刺激インナー「メディキュア」のご紹介を行なっています。



美材ルート事業

全国の理美容室に美容材料商などを通じて、当社のレディメイド・ウィッグやオーダーメイド・ウィッグをお届けしています。美容師を対象とした講習会など販促活動を展開しています。また、化粧品店へ向けて卸売りを行い、一般のお客様へ当社のレディメイド・ウィッグを販売しています。ビューステージ事業センターでは、新規事業として美容領域での展開をスタートしています。



通信販売事業

主に3つの柱を基軸にビジネスを展開。①EC直販サイトやダイレクト通販を中心としたBtoCビジネス、②TVショッピングなど通販会社向けに卸事業を中心としたBtoBビジネス、③新たな販路を企画・開拓する営業開発ビジネス。男性、女性向けヘアケア商品から美容機器、ウィッグまで幅広い商品ラインナップも特徴の1つです。



海外事業

現在、アデランスグループは、世界19の国と地域で事業を展開しています。各国のグループ会社においても、国内の取り組みと連動して「自社の強みを社会で活かす」を基本精神に、「笑顔を広げる」活動を実施しています。

「笑顔を広げる」活動

ボズレー社

BOSLEY



ボズレーは北米市場における毛髪移植（ヘアトランスプラント）のリーディングカンパニーです。

ボズレー社は、北米市場でトップシェアを有する、毛髪移植における世界的な第一人者です。ボズレー社の毛髪移植は専門性の高い医師と医療スタッフによって行われ、後頭部または側頭部の頭皮から健康な毛包（毛根を含む組織）を切除し、薄毛部分に移植します。施術方法は従来からあるFUT^{*1}の他、メスを使わない施術方法FUE^{*2}が加わり、より患者様のニーズに合わせた施術を提供しています。2019年4月末現在、27のクリニックと42の相談室を展開しています。

*1: FUT (Follicular Unit Transplantation: 毛包移植)
*2: FUE (Follicular Unit Extraction: 毛包抽出)

ヘアクラブ社

HAIRCLUB



北米市場において毛髪に悩む男性・女性向けに総合毛髪関連事業を展開するリーディングカンパニーです。

ヘアクラブ社は、北米市場におけるリーディングカンパニーとして、毛髪に悩む皆様に毛髪関連商品をご提供しています。細やかな気配りと高い実績、他社の追随を許さないサービス、さらにはグループ会社であるボズレー社と協働し（植毛顧客のボズレー社への紹介）、ヘアシステムや増毛商品などを中心とした幅広い商品を取り揃え、髪のお悩みやご予算、増毛方法など、お客様一人ひとりのご要望にお応えしています。2019年4月末現在、米国、カナダなどに121店舗を展開しています。

40年にわたり、毛髪に悩むお客様をサポートしてまいりました。経験豊富で優れたカウンセラー、美容師、施術スタッフが一丸となり、これからも信頼と実績を築いてまいります。

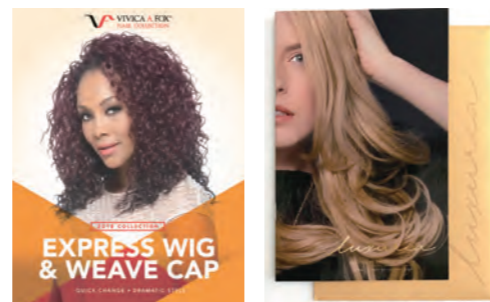
その他海外ビジネス（北米）

アデランス・ヘア・グッズ社

アデランス・ヘア・グッズ社は、男性・女性向けのオーダーメイド・ウィッグ、レディメイド・ウィッグなどの卸売・小売を展開しています。1987年にIHI社がアデランスグループの一員となり、サイバーヘア商品を米国にて販売するとともに、1989年のルネ・オブ・パリス社をグループ化後、女性向けファッション/医療用ウィッグ市場への拡大を図ってきました。現在では、米国でも有数の大手ウィッグメーカーとしてお客様に高品質のウィッグを提供しています。今後はさらなる成長に向け、既存ブランドの強化や新規商品の開発、販路の開拓を行っていきます。

アメコア社、エステティカ社

女性向けのレディメイド・ウィッグの卸売を行っています。特に、アメコア社はアフリカ系アメリカン市場に強みを持っており、さらなるシナジーを推進していきます。



米国乳がん研究協会への寄付

ボズレー社は、2014年から年に1回米国乳がん研究協会へ一定金額の寄付を実施しています。2015年より取り組みに対する社員のモチベーションを高めるため、内容の見直しを図りました。これまでの一定金額から、ピンクリボン月間である10月の売上に応じて、その一部を寄付する方法に変更。期間中、社内はピンクリボンを象徴するピンク色に彩られたり、パソコン上に現状の寄付金額を表示したりと社員の意識が高まるような工夫を施しています。現時点でボズレー社は12万5,000ドル以上を米国乳がん研究協会へ寄付しています。



Pay It Forward

ヘアクラブ社は、2000年に公開された米国映画「ペイ・フォワード 可能の王国」に感銘を受け、「厚意の輪を広げる」活動を2015年より開始。「Pay It Forward」は、慈善活動を通じて社員が地域社会に貢献することをサポートし、推奨するために作られたボランティアプログラムです。受けた厚意を相手に返すのではなく、周りの人に感謝の気持ちを広げていくことをテーマにしています。



Hair Club For Kids

ヘアクラブ社は、「愛のチャリティ」と同様のサポート活動として、6歳から17歳の髪に悩む子どもたちにウィッグをプレゼントする「Hair Club For Kids」を行っています。1995年からスタートし、20年以上継続して提供しています。



Toys for Tots

アデランス・ヘア・グッズ社は、「子どもたちにおもちゃを」という思いから「Toys for Tots」活動を2018年から行っています。クリスマスの時期、恵まれない子どもたちに、未開封の新しいおもちゃを配っています。1年間で220個のおもちゃをプレゼントしました。

支援団体へのウィッグ寄贈

アメリカには、がん治療などでウィッグを必要とする患者様を支援している非営利慈善団体があり、アデランス・ヘア・グッズ社は、その団体にウィッグを提供することで活動をサポートしています。2018年には6団体に約1,800枚のウィッグを提供しました。

「Look Good Feel Better」をサポート

「Look Good Feel Better」は、女性がん患者様を対象に、治療中に影響を受けるアピアランスを改善するための美容テクニックを無償提供する支援を行っている団体で、今まで27カ国200万人を支援されています。アデランス・ヘア・グッズ社はQOL向上のアイテムとして、同プログラムに約8,000ドル分のつけ毛を提供しました。

アジアでの海外ビジネス

アデランス・シンガポール社



2002年9月、現地法人を設立。同年10月にレディメイド・ウィッグを扱うフォーチュンウィッグス、2004年にサロンをグループ化。モールで展開するレディメイド・ウィッグ販売に加え、サロンではオーダーメイド・ウィッグ、増毛、育毛までトータルに提案しています。

アデランス・トータルヘアビューティソリューション (タイ) 社

2018年9月、バンコクに現地法人を設立。同年11月に、サイアム高島屋内に「アデランス サイアム高島屋」をオープンしました。レディメイド・ウィッグ、オーダーメイド・ウィッグ、増毛商品を提供しています。

アデランス台湾社



1990年1月、現地法人を設立し、レディメイド・ウィッグ、オーダーメイド・ウィッグを扱う。ヘアサロン機能を完備したオーダーメイド・ウィッグ、増毛や育毛サービスがメインのサロン運営に力を入れている。CSR活動に積極的に取り組んでおり、アジア販社をリードしています。

アデランス香港社

2017年4月、香港有数の商業地 Causeway Bay に現地法人を設立。同年9月に、アデランス Causeway Bay 店をオープンしました。サロン機能を併設しており、ウィッグのみならず、増毛から育毛サービス、美容機器まで提供しています。

アデランス上海社

2005年12月、現地法人を上海に設立。日本同様にオーダーメイド・ウィッグ、レディメイド・ウィッグを扱い、特に百貨店やモールでのレディメイド・ウィッグの販売に力を入れています。

欧州での海外ビジネス

アデランス・フランス社

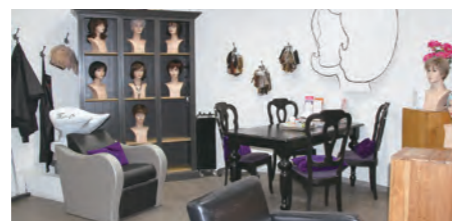


1992年にヨーロッパで最初にグループ入りし、アデランスのヨーロッパ創業の地。ウィッグやヘアピース、毛髪関連商品の製造販売に加えトータルヘアソリューションのサロンを展開しています。

アデランス・スウェーデン社

スウェーデンでのウィッグの代名詞となった企業。国内のみならず、フィンランドやノルウェー、デンマーク等に輸出しています。病院内ヘアサロンを含む店舗の運営も行っています。

アデランス・ベネルクス社



オランダ、ベルギー国内の卸売および直営店での小売販売の他、オランダでは病院内ヘアサロンも展開。女性用ウィッグの分野では、オランダ、ベルギーにおけるファッションリーダー企業です。

アデランス・ドイツ社

ウィッグやヘアピースなどをドイツ国内百貨店・直営店で販売。ドイツ国内外の卸売を行っており、医療分野にも進出しています。

アデランス・ユークー社



ファッションウィッグやヘアエクステンション、その他毛髪関連商品の卸売・小売販売を行っている、英国におけるウィッグ販売の第一人者です。

アデランス・トータルヘアソリューション・イベリア社

ファッションウィッグやつけ毛、その他毛髪関連商品をスペイン、ポルトガルに卸売しています。その他、小売店2店舗の運営も行っています。



台湾の病院へのウィッグ寄贈

アデランス台湾社は、病院内ヘアサロンの出店を模索する中、台湾ではウィッグの無償レンタルに需要があることがわかり、2017年から、店舗の展示サンプル品を高雄市内の病院へレンタル用として寄贈を始めました。2018年には、台中市にある病院へウィッグ10枚と脱毛時帽子20枚を寄贈しました。



「レディスナイト・チャリティファッションショー」を開催

アデランス・ユークー社は、イギリスのブライトンでCSRイベント「レディスナイト・チャリティファッションショー」を開催しました。「レディスナイト・チャリティファッションショー」は、脱毛で悩まれる方が多くいることを広く社会に伝え、脱毛についてのサポートを呼びかけることを目的に開催したものです。



アロペシア患者様団体「Alopecia areata deutschland aad e.v」を支援

アデランス・ドイツ社は、アロペシア患者様の団体「Alopecia areata deutschland aad e.v」を2017年より支援しています。割引価格でウィッグを提供する他、17歳以下のお子様には無償でウィッグを提供しています。さらにアロペシア・ファンデーションを加えた3団体でアロペシア患者様をモデルに起用したカレンダーを制作し、売上を団体に寄付しています。



障害者施設での無料ヘアカット

アデランス台湾社は、ボランティア団体からの呼びかけに賛同し、2012年から高雄市内で週に1回程度、障害者施設を訪問し、無料カットを行っています。2015年には、基隆市の美容室オーナーから要望があり、同市内でも始めました。この活動は社員の技術力アップにもなるため、今後も継続して行っています。



抗がん剤等の脱毛に悩む患者様を支援する「My New Hair」をサポート

アデランス・ユークー社は、世界的ヘアスタイリストであり、大英帝国勲章(MBE)を授与されたトレバー・ソルビーさんが行う「My New Hair」活動を支援しています。また、抗がん剤等の脱毛に悩む患者様を支援するため、練習用ウィッグの提供と美容師への技術指導を行っています。



がん患者様と家族を支援する財団「Stichting Nu Jij」を設立

アデランス・ベネルクス社フランシー・ヘアブティック店の店長であるレニー・ヴァン・ズンダートが、自身のがん罹患経験からがん患者様をサポートする財団「Stichting Nu Jij」を設立し、アデランス・ベネルクス社としても活動を支援しています。週末に様々なイベントを企画し、18～40歳の患者様120名が参加されています。

グループ生産拠点

アデランスは、生産販売一貫体制のもと、タイ、フィリピン、ラオスなどにある自社工場及び提携工場において、熟練した技術者が繊細で高品質なウィッグの生産を担っています。

アデランスは、1986年のアデランス・タイ社設立を皮切りに、1992年にワールド・クオリティ社(タイ)、2002年にアデランス・フィリピン社を設立し、東南アジアでの生産を拡大してきました。2012年9月よりラオスでの生産を開始し、2013年10月にはフィリピン第2工場を稼働しました。タイ、フィリピン、ラオスを三極として、お客様に高品質のウィッグをお届けしています。



アデランス・タイ社



ワールド・クオリティ社

アデランス・タイ社

1986年、ナワナコンに設立し、1988年にブリラム工場が稼働し、レディメイド・ウィッグの一貫生産、オーダーメイド・ウィッグの毛植え・ベース裏コーティング・検品、商品の修理業務も行っていきます。1999年にISO9001、ISO14001認証を取得しました。

ワールド・クオリティ社

1992年にタイのアユタヤに設立し、2012年にサラブリ工場を建設し移転しました。アデランスグループ商品の製造・物流窓口を担当しており、ウィッグの生産はもちろん、人工毛髪「バイタルヘア」の生産も行っています。

アデランス・フィリピン社

2002年、フィリピンのクラークに設立し、男女オーダーメイド・ウィッグの製造および輸出、人工毛髪「サイバーヘア」の生産を行っています。2013年にオーダーメイド・ウィッグの毛植え工程専門工場として、第2工場が稼働を開始しました。

ラオ・クオリティ社

新たな生産拠点として、ラオスのヴィエンチャン工場にてオーダーメイド・ウィッグの毛植え工程の委託生産を2012年に開始しました。2017年に同工場を運営するラオ・クオリティ社をグループ化し、ワールド・クオリティ社から届く商品の毛植えをメインに行っています。



アデランス・フィリピン社



ラオ・クオリティ社



ISO14001の取得

ISO14001(国際環境管理規格)を1999年に認証取得し、以下の活動を継続して実施しています。

1. 工場排水による水質汚染の防止
2. 工場内における空気汚染の防止
3. 産業廃棄物の安全処理
4. 有資源の効果的使用
5. 工場内の労働環境改善



国際品質管理規格の取得

アデランスグループの主要生産拠点であるタイ工場は、安定した製品クオリティを維持するため、1999年にISO9001(国際品質管理規格)を取得しています。



病院へのウィッグ寄贈 累計枚数2,294枚

当社はタイにウィッグの生産工場をもつ縁から、ウィッグ寄贈を2012年より毎年実施しています。2019年は3つの病院に計130枚を寄贈し、開始以来累計で2,294枚のウィッグを寄贈してきました。



ウィッグ製作時の廃材の活用

ウィッグ製作の過程で、短い毛材、ネットの切れ端やドラム缶など再利用できない資材が生じています。アデランス・タイ社は、そのような資源を廃棄するのではなく、有効活用できないかと考え、造花、サンダルなど多種多様な試作に取り組み、展示用やプレゼント用に役立てています。



義援金と支援物資を提供

2018年7月にラオス・アタプーで発生した水害被害に対し、ラオ・クオリティ社では古着やサンダル、即席麺などの支援物資と義援金を寄付しました。また、災害支援受付場所へ届けの際、ラオ・クオリティ社の社員がボランティアにも参加しました。

給食・教科書代を寄付

ワールド・クオリティ社は、工場の近くにある幼稚園、小学校に、給食および教科書・参考書の費用の支援を行っています。



職場環境の充実度で表彰

2013年2月、アデランス・フィリピン社が、フィリピンの労働省から、社員(特に女性)に対する職場環境の充実、福利厚生面での促進、社員の家族に対して配慮されているとして表彰されました。

「笑顔を広げる」活動



福祉支援自動販売機の設置

ワールド・クオリティ社は、貧困や障害に苦しむ子どもたちを支援する自動販売機を設置しました。自動販売機の売上の一部は地元の聴覚障害者支援学校や教育を受けられない子どもたちの支援に役立てられています。



現地子供たちとの学校内植林

アデランス・タイ社が賛同するTO BE NUMBER ONE活動の一環として、子供たちに環境への意識を高める目的で、現地の学校の先生、生徒の皆さんと学校内植林を実施しています。この植林イベントは2009年から継続して取り組んでいます。



アデランスの CSR 活動 SDGs に対する取り組み

2015年、国連総会において貧困や不平等、不公正の撲滅、気候変動への対応など2030年までに達成すべき目標として「持続可能な開発目標 (SDGs)」が採択されました。

新興国だけでなく先進国などあらゆる国と地域が、2016年～2030年の15年間で達成するために掲げた国際目標として、持続可能な世界を実現するための17のゴール (大きな目標) と、それらを達成するための具体的な169のターゲットから構成されています。

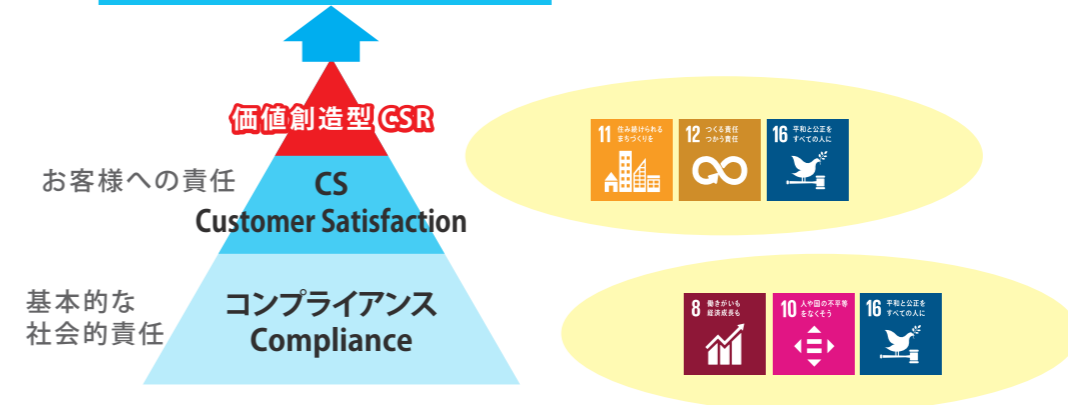
アデランスグループは、グローバルに事業を展開する企業として、世界が直面するさまざまな課題と真摯に向き合い、事業を通じた社会課題の解決を図り、重要課題の取り組みを推進することで持続可能な社会を実現し、持続的な成長を目指していきます。



アデランスグループは、創業以来「お客様の毛髪の悩みを解決する」ために、当社が実現できる価値や強みを「事業と一体化」することに取り組んできました。その価値創造型 CSR 活動を、SDGsの各目標との関連付けを進めています。



事業と一体化した価値創造型 CSR



今後は、グループ社員にSDGsへの理解を深めてもらうための施策、課題解決を通じたSDGs達成への目標設定といった取り組みを進め、さらなる社会課題の解決に寄与する事業の推進に努めていきます。



持続可能な社会を目指し 新毛髪素材の共同開発を開始 Spiber社が独自開発する構造タンパク質を活用



アデランスと構造タンパク質素材の産業化に取り組むSpiber株式会社 (本社：山形県鶴岡市、取締役兼代表執行役：関山 和秀) は、Spiberが独自開発する構造タンパク質を活用した新毛髪素材の共同研究開発に着手しました。

Spiber社では、地球規模の課題解決に貢献すべく、持続可能な次世代の基幹材料として注目される構造タンパク質の産業化に取り組んできました。

両社は、「構造タンパク質素材の活用」という点で気持ちを一つにただけでなく、真の意味での人の幸せ、喜びに少しでも貢献したいと願う互いの姿に強く共感し、今回の共同研究開発に至りました。

人工毛髪の原料となる石油も限りある資源であり、今後100年を見据え、枯渇資源に依存しない新たな選択肢となる毛髪素材の創出を進めて参ります。

「朝日地球会議 2018」に特別協賛 SDGsの考え方に対応したアデランスの価値創造型 CSR



2018年9月に開催された朝日新聞社主催の「朝日地球会議 2018」に、会議の趣旨であるSDGsの考え方に、当社は深く共感し、特別協賛しました。

毛髪や美容の最新技術の商品を展示し、「がん患者と装い〜アピアランス (外見) ケアの効果とは」をテーマに乳がん

サバイバー 2名のパネリストが自らの経験を基に、アピアランスケアの重要性をパネル討論しました。その後、当社執行役員海外事業本部副本部長 グループCSR広報室担当の箕輪 睦夫が「身近な取り組みが『笑顔』とともにグローバルな広がりへ」と題し、特別講演を行いました。

2018年に創立50周年を迎えたアデランス (以下、同社) は、常に新たなミッションを掲げて挑戦し続けています。今年のCSRコミュニケーションレポートでも、以下に掲げる4つの領域に分類して進めてきた、事業と一体化した価値創造型 CSR を、SDGsの17の項目と関連付けて、社会的課題の解決に向けて取り組みが開始されています。

- 1 愛のチャリティやがん患者様への支援など、社会に広く笑顔や喜びを広げる「社会・地域貢献」
- 2 病院内ヘアサロンや、クレドにもとづく笑顔であいさつ・接客など心からのおもてなしをすすめる「お客様の安心・安全」
- 3 フォンテーヌ緑の森、環境負荷の低減など経済と環境が両立する持続可能な社会の創造をめざした「環境への取り組み」
- 4 スタジオADによる芸術文化支援、Spiber社との連携を通じた新毛髪素材の共同研究開発など毛髪の未来に向けた産学連携、女性活躍支援など「学術・文化活動」

企業が取り組むミッションは、具体的な行動面に表現されることで、全社的な共通目標としてベクトルを合わせて取り組むことが可能となります。その意味で同社が、価値創造型 CSR とSDGsを関連付けて、社会的課題の解決に向けて取り組むミッションとして社内外に発表したことは、社員の一体感の醸成に多大な貢献を果たすことと確信しています。

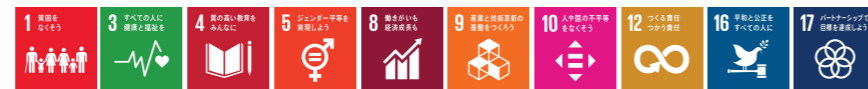
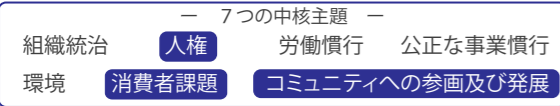
これまで時代をリードしてきた総合毛髪関連企業から、毛髪・美容・健康のウェルネス産業をめざし、常に新たなミッションを掲げて取り組む「挑戦と革新 (チャレンジ&イノベーション)」の企業文化が、社員の人たちに温かくそして大切に育まれて行くことを心から祈念申し上げます。



株式会社アデランス 顧問
駿河台大学名誉教授
水尾 順一

社会・地域貢献

アデランスグループの商品をご利用いただくお客様以外にも、毛髪関連事業を通じて、社会に広く、笑顔やよろこびを広げることができないかと考え、国内外で様々な活動に取り組み続けています。



当社は、1978年から「愛のチャリティ」を実施しています。これは「お子さまの髪の悩みを心の傷にしないために」をテーマに、病気やケガなどの理由でウィッグを必要とするお子さま(現在は4歳から15歳までが対象となります。)が笑顔を取り戻していただけるよう、ウィッグをプレゼントするという活動です。

当初はクリスマスの時期に限定していた活動でしたが、2012年9月から通年のものとなりました。2014年3月からは、従来のオーダーメイド・ウィッグだけでなく、レディメイド・ウィッグ(既製品)も、プレゼント対象に加わりました。



年度	贈呈数
2013年	172枚
2014年	265枚
2015年	343枚
2016年	336枚
2017年	315枚
2018年	330枚

愛のチャリティ 1978年から続く アデランスのCSR活動の原点

がん患者様などへの支援



NPO法人JHD&Cへの協力

病気などでウィッグを必要とするお子さまに無償提供している、NPO法人JHD&C(ジャーダック)への活動に、当社は賛同し、2015年3月から全国のアデランス店舗を頭のサイズの計測等の場として提供しています。2016年4月からはウィッグ製作の協力を開始しています。また、2018年にはヘアドネーション支援自動販売機を社内を設置しました。

JHD&C賛同美容室に登録

JHD&Cの活動は、現役で働く全国の美容師の有志によって支えられています。ヘアドネーション用のカットや頭の採寸、スタイルカット(ウィッグ用のヘアカット)等のさまざまな作業を美容師が本業の傍ら行っております。

2018年より、病院内ヘアサロン32店舗とアニーダプレー福岡けき通り店をJHD&C賛同美容室に登録し、該当店舗では、ヘアドネーション希望ドナーの受け入れやドネーションカット等が可能になりました。



世界子どもの日ユース・フェスティバルをサポート

2018年11月に開催された世界子どもの日ユース・フェスティバルをサポートしました。同イベントは、世界の深刻な人権侵害をなくすことを目的に設立された、国際人権NGOヒューマンライツ・ナウが主催されたものです。当社は、障害者女性活躍推進センター代表兼自立生活センターポカラ事務局長のアンジャンナK.C様にフォントナーのウィッグを提供しました。

社会・地域のために



福祉施設でヘアカットボランティア

2018年7月、日生デイサービスセンター南長崎と赤羽台で行われた「ハサミの日 ヘアカットボランティア」に4名の新入社員が参加しました。この活動は、学校法人山野学苑と一般社団法人国際美容協会がハサミの日の記念行事として毎年実施しています。当社が、「ハサミの日」のヘアカットボランティアに参加するのは今回が初めてになります。



「ブラインドメイク講習会」の開催 日本ケアメイク協会に賛同

当社は、一般社団法人日本ケアメイク協会の理念に賛同し、2019年6月に視覚障害者が自ら化粧を行う「ブラインドメイク講習会」を開催しました。同協会では、高齢の方・認知症の方・障がいのある方・疾病のある方等の福祉領域の対象の方が実践できる「ケアメイク」のモデルを確立し、その活動を広く普及するための活動を行っています。



「大阪府SDGs・健活10スペシャルマッチデー」に協賛

府民が生涯にわたって主体的な健康づくりに取り組む『健活10』をキャッチコピーに活動を行っている大阪府の理念に賛同し、2018年9月に開催された「大阪府SDGs・健活10スペシャルマッチデー」を協賛しました。当社は乳がんの早期発見・早期診断、早期治療を支援する「ピンクリボン活動」を行い、来場者への啓発活動を実施しました。



ピンクリボンスマイルウォーク

アデランスグループは、乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さを伝えるピンクリボン運動を応援しています。ピンクリボンバッジを配布するとともに、「ピンクリボンマーク」スタンドを全営業店の受付に設置し、社員への意識づけを心がけています。2018年は、東京と神戸で開催されたピンクリボンスマイルウォークに8回目となる参加を行いました。

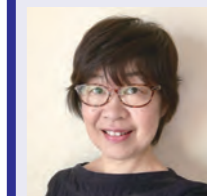


被災地での医療向けウィッグのお手入れ支援サービス

東日本大震災で被災されたがん患者様向けに、ウィッグのお手入れ等のサービスを通常価格の半額で提供する「ウィッグお手入れ支援サービス」を、2012年7月から現在にわたり提供してきました。本サービスは2019年6月末の終了を予定していましたが、継続のご要望が多く寄せられているため、東日本大震災から10年の節目の年にあたる2021年6月末まで延長します。

東日本大震災で被災されたがん患者さんを支援

One Worldプロジェクトは東日本大震災で被災されたがん患者さんにケア用品を届けようとした活動で、全国から寄せられたウィッグなど支援品を東北各地の病院を通して患者さんにお渡ししてきました。2012年7月からはアデランスさんのご協力、ウィッグのお手入れなどのサービスを通常価格の半額で利用できる「お手入れ支援サービス」を開始しました。古くなって汚れたり傷んだりしたウィッグが、シャンプーやカットをしてもらうことで蘇ったと、利用された患者さんたちに喜んでいただいています。好評につき延長につぐ延長を重ねてきましたが、このたびさらに2021年までサービスを延長していただくことになって、ありがたい限りです。プロジェクトの大規模支援品募集はすでに終了しましたが、今後もウィッグを寄付したいといったご厚意があればありがたくお受けして、必要な方に届けてまいります。



One Worldプロジェクト事務局 代表 寺田 真由美 様

お客様の安心・安全

アデランスグループでは、「私たちが目指すもの」として「心からのおもてなし」を経営理念の一つとして掲げ、お客様の満足と信頼を高めていくために、グループ一丸となって取り組んでいます。

7つの中核主題

組織統治 人権 労働慣行 公正な事業慣行

環境 消費者課題 コミュニティへの参画及び発展



当社は髪を通じて心の健康をサポートする医療事業活動に積極的に取り組み、その一環として病院内理美容室（ヘアサロン）を、2002年に開設し、現在では全国で32店舗となりました。

病院内ヘアサロンでは、一般的な理美容サービスのほかに、医療用ウィッグ及び他社商品のアフターケア、抗がん剤治療に伴う副作用の脱毛時のご相談や外見支援のご相談により、患者様のQOL（Quality of Life）の向上に向けたサービスを提供しています。

また、移動が困難な患者様を病棟までお迎えに行き、そのまま理美容サロンで技術が提供できる移動式の理美容椅子を導入するなど、バリアフリー化も行っています。患者様の身体的な配慮という点で、病院関係者から高い評価をいただいています。



病院内ヘアサロン

2002年に国内初の開設 様々なお客様のご要望にも対応

やさしい接客

病院を訪問させていただくスタッフ、患者様をお手伝いさせていただくスタッフには、医療知識などの講習を義務付けています。

外部専門講師による医療接客講習は、VOL-NEXT社（がん患者サービス事業会社）により実施され、2005年以降の受講者数は2,000名を超えました。

病院内ヘアサロンの海外展開

日本で評価の高い病院内ヘアサロンを、2011年からドイツ、オランダ、スウェーデンにも導入し始めています。今後、欧州だけでなく米国への展開を予定しています。（8店舗2019年7月現在）

ヘアサロン こもれば 大阪国際がんセンター店 接客大賞を受賞

ヘアサロン こもれば 大阪国際がんセンター店が大阪国際がんセンターの運営に大きく貢献した優秀賞と接客大賞をダブル受賞しました。センターの職員の方以外の、外部団体の受賞は初めてのことでした。

今後も思いを持って取り組んでいきたい

このたび、大阪国際がんセンター様より、優秀賞と接客大賞をいただくこととなり、社内での受賞とは違い、病院内でいるような従事者や患者様からの評価をいただいた上での受賞ということで、驚きと嬉しさがあります。

普段より、お客様の体調面を考慮するのはもちろんのこと、単にカットするだけの場所にならないよう、お客様が人生の岐路におられることを念頭に入れ、接客対応することを心掛けております。

お客様のアピランスに対する対応に上限はないと思います。今後も、いろいろな知識を身に付けながら、思いを持って取り組んでいきたいと思っています。



ヘアサロン こもれば
大阪国際がんセンター店 店長
平山 和久

お客様のニーズの具現化



男性用新スタイルの JIS規格医療用ウィッグ登場

お客様からのお問い合わせが増えたことから、お客様に寄り添った商品を提供するため、着け心地や扱いやすさにこだわり、約1年かけ数回の試行錯誤を繰り返し、医療用ウィッグブランド「ラフラ®」から男性用レディメイド・ウィッグ（既製品）の新スタイルを2019年6月に発売しました。

セミオーダータイプの 医療用ウィッグを発売

当社初となるセミオーダータイプの医療用ウィッグ「アデランスウェルネスウィッグ」を、2019年5月に発売しました。セミオーダータイプは医療用ウィッグの中でも、お客様からの人気が高く、ご要望の多い商品です。スタイルアレンジやカットがサロンで可能なため、闘病中でも自分らしさを忘れずにおしゃれを楽しんでいただけます。

頭皮や髪、フェイスをケアする ビューティマシンを新発売

スカルプ（頭皮）や髪、フェイスなどのケアを目的とした「HairRepro Z Premium（ヘアリプロゼットプレミアム）」を、2019年6月に発売しました。

一般生活者での美意識が急速に高まっていることから、スカルプケアをより強化したい方向けに各種機能を搭載した新商品です。



心からのおもてなし／最高の技術と知識



全国技術競技大会

お客様に心からご満足いただける最高の技術を提供することを目的とし、オーダーメイド・ウィッグの作製指示やブロー、カット、スタイリングなどの技術力を競う大会「アデランス全国技術競技大会」を開催しています。

2019年では25回目の開催となり、全国のアデランス、レディスアデランスの店舗などで働く理美容師の資格を有する者（1,004名）のうち各予選大会を勝ち抜いた19名の中から、各部門の優勝者を決定しました。



全国ロープレ・スタイリング大会

お客様への接客力や、レディメイド・ウィッグ（既製品）のカット、スタイリングなどの技術力を競う大会「全国ロープレ・スタイリング大会」を開催しています。

3回目の開催となる2019年では、百貨店・直営店・GMS店舗で働く正社員・契約社員（695名）のうち、「ロープレ部門」「スタイリング部門」それぞれの部門において、技術力の高い1名を決定しました。



毛髪診断士の資格取得

毛髪と皮膚の専門的な知識をお客様へ正しくお伝えできるように、毛髪診断士（日本毛髪科学協会）の資格取得を推進しています。

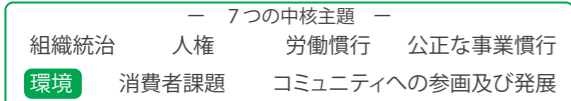
社内の資格保有者数

- ・毛髪診断士：343名
- ・認定講師：13名
- ・認定指導講師：7名
（2019年6月現在）

毛髪診断士は公益社団法人日本毛髪科学協会の登録商標です。

環境への取り組み

アデランスグループは、「環境」を企業の社会的責任の一つと考え、商品の環境対応や事業所での環境負荷の低減など、経済と環境が両立する持続可能な社会を創造できるよう、環境に配慮した活動に取り組んでいます。



当社の主力商品であるウィッグは、約80%以上がポリエステル由来の人工毛髪で作られているため、お客様がご使用されたあと、家庭ごみとして廃棄されると、CO₂の発生が危惧されます。そのようなウィッグを回収して、当社が適切な廃棄処理を行うことで、環境負荷への影響を低減することができるのではという思いから始まったのが「フォンテーヌ緑の森キャンペーン」です。



フォンテーヌ緑の森キャンペーン

フォンテーヌ店舗で、お客様の使われなくなったウィッグ（他社商品を含む）を店頭にお持ちこみいただいた際に、クーポン券（緑のクーポン）を進呈します。このクーポン券を利用することで、新たなフォンテーヌウィッグを購入いただく際に割引価格が適用されることに加え、お買上商品1点につき100円分を環境保全活動に還元します。

フォンテーヌ緑の森キャンペーン ウィッグの回収と環境保全を結ぶエコサイクル 2009年のキャンペーン開始から11年目

環境保全面積	
2009年度	406 m ²
2010年度	1,813 m ²
2011年度	2,063 m ²
2012年度	2,531 m ²
2013年度	3,469 m ²
2014年度	5,013 m ²
2015年度	6,825 m ²
2016年度	7,875 m ²
2017年度	12,459 m ²
2018年度	22,776 m ²

環境保全面積は、植林の場合は植林本数に応じた面積、環境保全団体への支援の場合は当該団体の管理面積と当社からの支援比率をもとに、試算したものになります。

ウィッグの環境に配慮した廃棄

お客様がご利用になれなくなったウィッグは、当社が回収し、環境に配慮した適正な廃棄を行っています。産業廃棄物処理会社（J&T環境 川崎エコクリーン工場）と契約し、CO₂の削減に努めるなど、環境に配慮する形で進めています。なお、人工毛髪の材料はポリエステルですが、塩ビを使用しないことで、焼却しても汚染物質の発生がしにくくなっています。



環境負荷の低減



3D型取りシステムを導入

2014年12月より、独自に開発した3D型取りシステムを店舗に導入しました。これにより、従来の頭髪測定で使用するフィッターを削減できるとともに、フィッター輸送が不要になるため、環境にやさしい対応ができるようになりました。



LEDを活用した店舗へ

「レディスアデランス」の店舗に、美術館のように多彩なウィッグを展示する「スタイル・ミュージアム」の導入を進めています。照明のLED化など消費電力の低減を図り、環境負荷が軽減した店舗造りを進めています。



節水用シャワーヘッドの導入

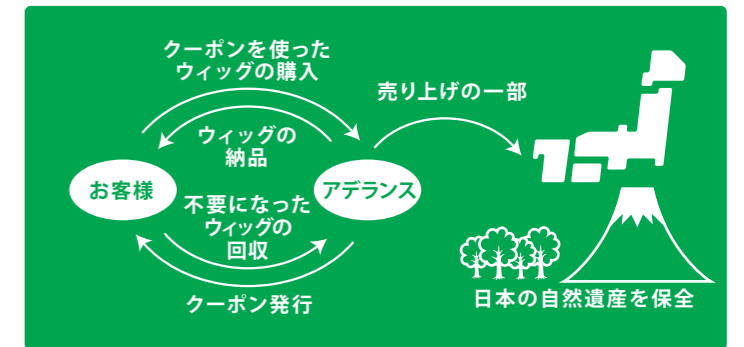
店舗に節水用シャワーヘッドを導入しています。このシャワーヘッドの導入により、水道水の節水や温水化するためのCO₂削減に効果を発揮しています。

活動トピックス

緑の森キャンペーンを全国規模に拡大 ～日本全国のエリアでの環境保全活動～

2009年に始まった「フォンテーヌ緑の森キャンペーン」が、2017年より「緑と桜エコロジカルプロジェクト」として活動範囲が広がりました。

従来の山梨県での植林から、日本全国の自然遺産を保全する活動となります。日本の美しい自然を未来の子どもたちへ残すため、全国規模の環境保全へと展開を広げていきます。



「緑の森キャンペーン」全国展開 第1弾 ～NPO法人 さくら並木ネットワークとのコラボレーション～

2017年より東日本大震災の被災地区への桜並木植樹を支援しています。

3年目となる今年、南三陸町の津波到達地点に植樹を行う「海の見える命の森」プロジェクトに参加しました。

「海の見える命の森」プロジェクトは2016年に開始し、震災を通じて『学んだこと』『後世に伝えねばならないこと』『祈りたいこと』『残したい風景』を伝える場所として、南三陸町の皆様が3.11に合わせて毎年3月に植樹を行っています。



アデランス様には現地へ足をお運び頂き、被災地の新たなコミュニティの場所作りにご支援賜り心より感謝申し上げます。「海の見える命の森」へ植樹された桜が地域の人々の心を明るくし、環境活動の場、また震災の教訓を伝承する場となるよう努めて参ります。

南三陸ホテル観洋
女将
阿部 憲子 様

NPO法人 さくら並木ネットワーク
100年に1度は必ず東日本一帯にやってくるという地震と大津波の際に住民避難の目印となることを目的として、東日本大震災の大津波到達地点に桜の植樹活動を行なっています。

「緑の森キャンペーン」全国展開 第2弾 ～民間企業として初サポート「静岡県立森林公園」でのアカマツ林再生活動～

2019年より、新たな環境保全先として、「静岡県立森林公園」（浜松市浜北区尾野）でのアカマツ林再生活動への協力を民間企業として初めて開始しました。

同地では、アカマツ林を主体とした自然の景観として県民に親しまれ、また環境省からも「生物多様性保全上重要な里地里山」として選定されるなど、希少生物の生息地としても評価されています。しかし、2011年の東日本大震災の影響で、松くい虫防除剤の空中散布用のヘリコプターが確保できず、松くい虫の被害が激増。そのため、園内の広範囲に純林として存在していたアカマツ林が、10年前の約1/3程度にまで減少しています。

こうした状況を鑑みて同地のアカマツ林再生活動への協力を決定しました。アカマツ林の再生には数十年を要します。2018年に50周年を迎えた当社が次の100周年に向けて、同地のアカマツ林が再興できるようサポートしていきます。



このたび、株式会社アデランス様に静岡県立森林公園内の「アカマツ林の保全と再生」に、企業として初めて取り組んでいただけたこととなりました。森林公園のシンボルであるアカマツの森、この再生に御尽力いただけるということで、本当に心強く思っております。年間85万人が訪れる県立森林公園の魅力や価値が増すとともに、地域の美しい景観が再生され、県内外から更にも多くの方々が訪れることを期待しております。

静岡県
くらし・環境部長
鈴木 亨 様



「しずおか未来の森サポーター」の認定ラベル
社会貢献活動として、静岡県内での森づくり活動を行う企業に対して、静岡県より付与される認定ラベルです。

学術・文化活動

アデランスグループは、「笑顔」や「よろこび」あふれる社会の実現をめざし、当社の強みを活かせる「毛髪・ウィッグ」領域での活動に重点を置いています。

7つの中核主題

組織統治 人権 労働慣行 公正な事業慣行

環境 消費者課題 コミュニティへの参画及び発展

4 真の思いやりを
人々に

5 ジェンダー平等を
実現しよう

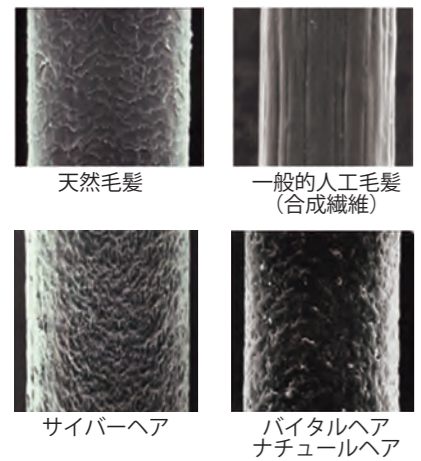
9 健康と経済発展の
両立を

12 つくる責任
つかう責任

17 パートナーシップで
社会を前進しよう

毛髪の未来に向けた挑戦

時代とともに変わる 社会からの要請に応えるため、 積極的な研究開発を進めています



多くのオーダーメイド・ウィッグには人毛が使われています。当社では、将来起こりうる人毛枯渇を想定し、安定的にウィッグ商品を提供するために、1983年より人工毛髪の研究をスタートしました。

1990年に人毛のキューティクルに近似する表面形状として、色あせがなく、スタイル保持に優れた人工毛髪の開発に成功し、「サイバーヘア」の名称で商品化し、1991年より発売を開始しました。さらに、雨や洗髪、空気中の水分などで変化する天然毛髪の風合いを表現できる「バイタルヘア」の開発にも成功し、2006年より商品化しました。

当社では、より人毛に近い人工毛髪の実現は、人毛供給における社会的課題の対応策の一つと考えています。さらに、当社の人工毛髪は、焼却しても環境汚染物質が発生しにくく、環境へのやさしさにも配慮しています。

また、2018年9月に、当社は持続可能な社会を目指し、株式会社Spiberと新毛髪素材に関する共同研究開発を開始しました。(ご参考: 本誌13ページ)

今後も、これまで進めてきた研究開発をさらに進め、次世代の人工毛髪開発に取り組んでいきます。

多くのオーダーメイド・ウィッグには人毛が使われています。当社では、将来起こりうる人毛枯渇を想定し、安定的にウィッグ商品を提供するために、1983年より人工毛髪の研究をスタートしました。

1990年に人毛のキューティクルに近似する表面形状として、色あせがなく、スタイル保持に優れた人工毛髪の開発に成功し、「サイバーヘア」の名称で商品化し、1991年より発売を開始しました。さらに、雨や洗髪、空気中の水分などで変化する天然毛髪の風合いを表現できる「バイタルヘア」の開発にも成功し、2006年より商品化しました。

当社では、より人毛に近い人工毛髪の実現は、人毛供給における社会的課題の対応策の一つと考えています。さらに、当社の人工毛髪は、焼却しても環境汚染物質が発生しにくく、環境へのやさしさにも配慮しています。

また、2018年9月に、当社は持続可能な社会を目指し、株式会社Spiberと新毛髪素材に関する共同研究開発を開始しました。(ご参考: 本誌13ページ)

今後も、これまで進めてきた研究開発をさらに進め、次世代の人工毛髪開発に取り組んでいきます。

産学連携

大阪大学: 脱毛・発毛のメカニズムの解明



2006年4月より、大阪大学大学院医学系研究科に寄附講座を開設しました。日本における毛髪研究の第一人者である、大阪大学大学院医学系研究科の乾重樹特任教授を中心とした研究チームと脱毛・発毛のメカニズムの解明を進めています。

大分大学: 抗がん剤治療時の脱毛予防



2013年11月より、最先端のがん研究を行っている大分大学 消化器・小児外科学講座の猪股雅史教授と、抗がん剤治療の副作用である脱毛の予防に関して共同研究を進めています。

東京工業大学: より美しく、より自然な人工毛髪



2014年12月より、紡糸工学およびプラスチック加工における世界的権威である東京工業大学 物質理工学院 材料系の鞠谷雄士教授と学術契約を締結し、人工毛髪研究における共同研究を進めています。



第9回癌・炎症と抗酸化研究会 (CIA研究会) においてモーニングセミナーを共催



第23回日本臨床毛髪学会学術集会において、ランチョンセミナーと市民向けスポンサードセミナーを共催

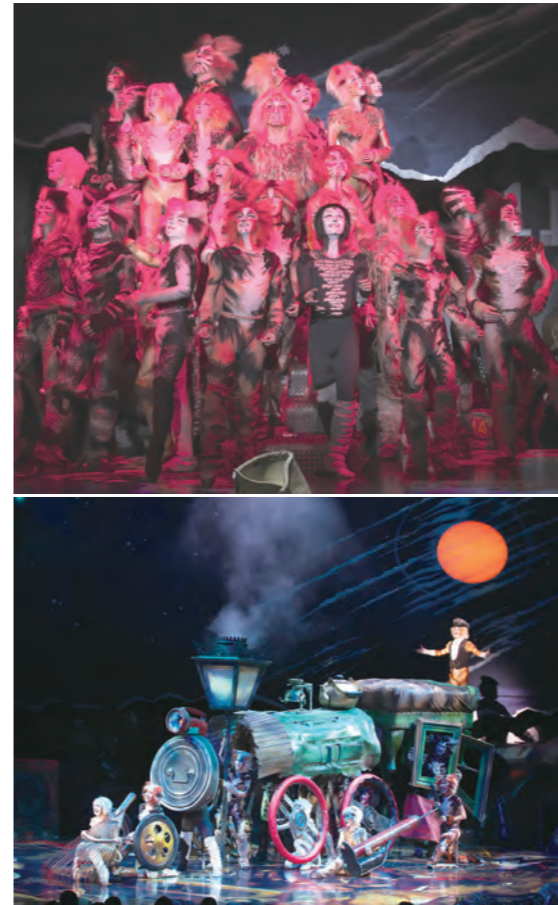


第6回看護理工学会学術集会においてランチョンセミナーを共催



CEATEC JAPAN 2018にサンプル出展

スタジオAD ウィッグとヘアメイクのエキスパート集団 エンターテインメント業界を支えて36年



撮影: 山之上雅信

アデランスは、ウィッグを多彩な文化活動に提供することで、ウィッグの持つ可能性を広げています。中でも文化芸術部門であるスタジオADは、日本を代表する舞台芸術・映像作品を手掛けています。

1983年にミュージカル『キャッツ』が劇団四季によって日本で初演されました。『キャッツ』の激しいダンスの動きに耐えるウィッグは、劇団四季のヘアメイク・衣裳デザイン担当者と当社スタッフが協力して開発したものです。その後、当社独自の芸能用ウィッグは、『オペラ座の怪人』、『美女と野獣』『クレイジー・フォー・ユー』といった日本を代表する舞台芸術に採用され、その他にもさまざまな映画やテレビ、コンサートなどに使用されています。

お客様を笑顔に 縁の下の力持ちとして貢献

ミュージカル『キャッツ』の日本での初演を機に、1985年よりスタジオADの活動が始まり、ウィッグの新たな可能性を追求してきました。激しい動きにも耐え自然に見える事、少しでもつけ心地よくデザインの良いものを、という目標を持って活動を続けてきました。舞台、映画やドラマなどをご覧になったお客様にも喜んでいただける、やりがいのある仕事だと思っています。

戦時中を経て女優を続けられてきた方から、『おしゃべりが出来ない時代でも、綺麗でいたい気持ちは失わなかった』と伺った事が今でも心に残っています。

アデランスの文化芸術活動を支えるスタジオADは、どんな時代になってもお客様が綺麗になり、笑顔になっていただけるよう、縁の下の力持ちとして努力と変化を重ね、エンターテインメントに貢献し続けていきたいと思っています。



株式会社アデランス 文化芸術部 サブマネージャー 林 みゆき

輝く女性への応援

アデランスは、自分らしく生き、今を輝く女性の皆様を、毛髪・ウィッグを通じてサポートをしています。



タンゴ歌手 冴木 杏奈 様

冴木杏奈様は、タンゴ界において新しい感性の歌手として注目を集め、「世界が尊敬する日本人100人」(ニューズウィーク日本版)や「タンゴに貢献した20人」(アルゼンチン)に選ばれ、タンゴ界最高峰の詩人オラシオ・フェレル氏からも「グラン・アーティスト(偉大なアーティスト)」と称賛を受けるとともに、世界各国で高い評価を得ています。



元・女子自転車競技 五輪金メダリスト ジョアンナ・ロウセル 様

ジョアンナ・ロウセル様は、ロンドン(2012年)、リオデジャネイロ(2016年)でのオリンピックで2大会連続金メダルを獲得した元英国自転車競技選手です(2017年3月に引退)。また、幼い頃にアロペシア(脱毛症)に患われ、髪の毛のほとんどを失われています。

ロウセル様とアデランス・ユーカー社との出会いは、オリンピックのセレモニーで使用するウィッグを求めてロンドンのお店にいらしたときでした。また、ロウセル様の結婚式での、ウィッグをつけたロウセル様の写真が英国の人気雑誌「Hello」誌に取り上げられ大きな話題となりました。



書道家 永田 紗戀 様

永田紗戀様は、女性ならではの素直な言葉と、そこからイメージする彩色豊かな作品、書道の枠を超えた自由な雰囲気が多くの女性から支持されているアーティストです。近年はレッスンや講師の養成に力を注ぎ、現在は全国に30名もの認定講師を輩出しています。

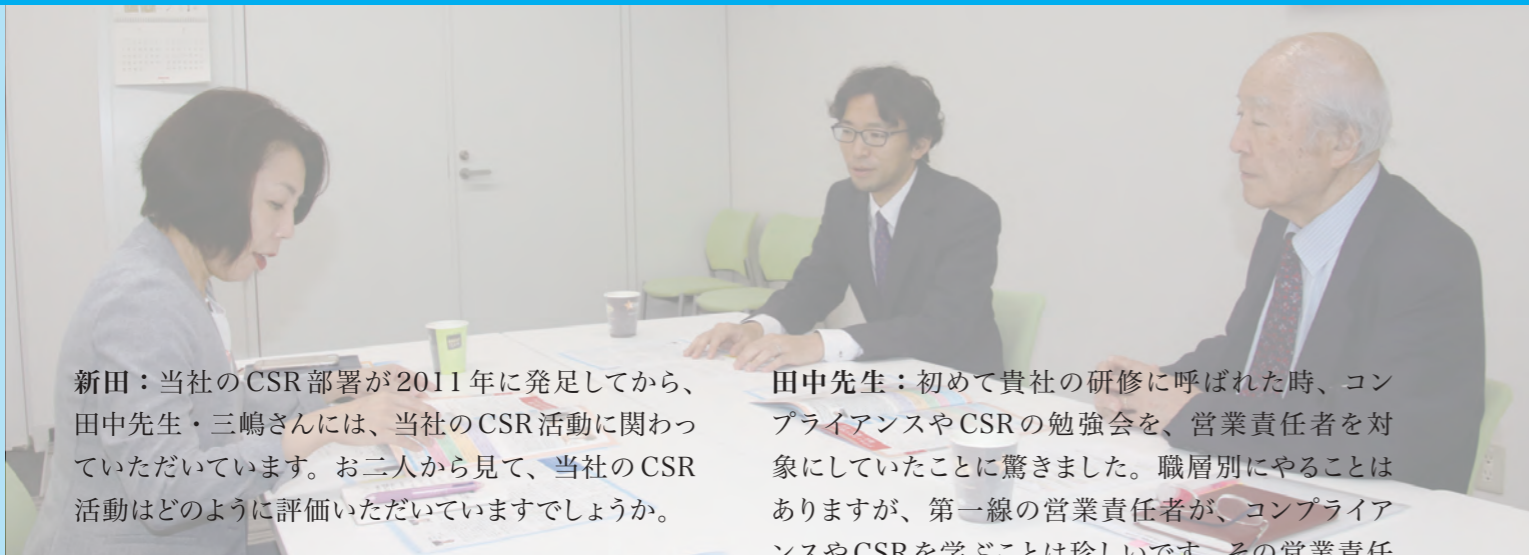


チェリスト・料理家・ソムリエ 大前 知諤 様

大前知諤様は、桐朋学園大学音楽学部を卒業後、ニューヨーク・ドイツ・パリの各音楽院にて学ばれ、国内外のリサイタルで活躍されています。音楽の研鑽を積む傍ら、パリの名門ホテル、ホテル・リッツ内にあるエコール・リッツ・エスコフィエにてフランス料理・製菓・パンすべてのコースを終え、グランド・スーパリオール・ディプロマを取得されています。その経緯から、「音と食のコンサート」という独自の企画を主宰し、活動が目まぐるしくなっています。

ステークホルダー・ダイアログ

今回は、経営倫理実践研究センター（BERC）特別首席研究員である田中宏司先生と合同会社ツバルの森の代表社員・三嶋浩太氏を外部の有識者としてお招きして「ステークホルダー・ダイアログ」を実施しました。（実施日：2019年7月24日）



新田：当社のCSR部署が2011年に発足してから、田中先生・三嶋さんには、当社のCSR活動に関わっていただいています。お二人から見て、当社のCSR活動はどのように評価いただいていますでしょうか。

田中先生：貴社は、1968年に創業し、1970年代にはいわゆる“CSR活動”を開始しており、それが本業に根ざした内容だったというのは、強みだと思います。今でこそ、「事業と一体化したCSR経営」と言っていますが、当初は使っていなかった。そういう基軸が社員のみなさんの意識の中にしっかりしていて、それが企業文化として根付いていると思います。

三嶋氏：一般的な企業のCSR活動では、事業と関係のない分野で、また寄附で済ませてしまうことが多いのですが、貴社の場合、事業に関わる領域での実活動がほとんどで、そのような点で、他の企業とは違う点だと感じています。また、1社だけで行うよりも、お互い得意なところを組み合わせることが、CSRのみならずビジネスの世界でも、今後のスタイルになると思います。貴社の場合、JHD&Cとのコラボレーションがわかりやすい例ですが、意識せずにそういう協働スタイルでの活動を、ずいぶん前から実現されています。

田中先生：初めて貴社の研修に呼ばれた時、コンプライアンスやCSRの勉強会を、営業責任者を対象にしていたことに驚きました。職層別にやることはありますが、第一線の営業責任者が、コンプライアンスやCSRを学ぶことは珍しいです。その営業責任者がコンプライアンス/CSRの意味合いを理解したうえで営業活動を行うことはとても大切です。事業と一体化を「当たり前のように行う」ことへとつながり、当社の力強い点だと思います。

新田：「CSRは金食い虫」と言われ、営業と対立しがちという話をよく聞きますが、当社のCSR活動は、営業現場にCSR活動の基軸を置き、経営陣をはじめ営業部長が意識しているところに特徴があると思います。当社の過去のステークホルダー・ダイアログを見ると、その対談には営業の現場の人が参加しています。

三嶋氏：営業現場という話が出ましたが、お客様から見るところでの活動も、貴社の特徴だと思います。2009年から始まった「フォンテーヌ緑の森」は、キャンペーンの中にお客様が入ることで、緑につながっていくという仕組みで、お客様に当社の思いが伝わり、それが評価されて、継続的な活動となっています。

田中 宏司 様
一般社団法人
経営倫理実践研究センター
特別首席研究員

田中先生は、当社がCSRコミュニケーションレポートを2012年に初めて発行して以来、毎回のステークホルダー・ダイアログにご参加いただいています。



三嶋 浩太 様
合同会社ツバルの森 代表

ツバルの森は、当社が「フォンテーヌ緑の森」を始めるにあたり、プロモーション企画・環境施策等について、2009年より対応いただいています。



(司会)
新田 香子
株式会社アデランス
グループCSR広報室室長
経営倫理士

新田：「フォンテーヌ緑の森」は、すべての人が笑顔になる、まさに「三方よし」の仕組みで、レスター大学からも評価されて、大学での3年連続の講義へとつながりました。

田中先生：経営陣から「CSR活動をやろう」とお題目を言う会社はたくさんありますが、その意思が現場の社員まで伝わっている会社は意外と少ないです。会社の中で働く人にとって、働いているときは分からないかもしれませんが、社会に役立つ仕事をどれだけしてきたということが、その人の人生を豊かにさせます。ある意味、貴社のCSR活動は社員一人一人を豊かにするということと言えると思います。

新田：そういうお話を聞くと社員としてうれしく思いますし、他の社員にとっても同様ではないかと思えます。昨今、SDGsの重要性が増してきています。それに照らし合わせて、今後当社はどのように進んでいくべきだと考えられますか。

三嶋氏：SDGsは、経済成長しながら、世界の社会的な課題を解決していくというのが基本的なテーマです。一般的な企業の場合、CSR活動は事業とかけ離れた企業が多く、SDGs対応に苦労している企業も見られます。貴社の場合、事業と根ざしたCSR活動をやってきていて、当然まだ対応していないSDGsテーマもありますが、日本だけでなくグローバルに事業を行なっていますので、日本では対応しにくいテーマも、海外のグループ会社では対応可能だったりというような感じで、CSR活動の領域が広がってくるように思います。

田中先生：貴社が、従来から行っている“社外に問いかけて、それに応じる”そして“根底にある「ダイバーシティ」「弱者を置いていかない」という概念”が基本です。SDGsの時代だからと言って、すぐに飛びつくと、基本の崩れになりかねないと思います。まずは、貴社の目標である4つの分野をきちっとやるという骨組を崩さない。それに加えて、さきほど、三嶋さんが言われたような、海外グループ会社でSDGsの拡大が可能な活動を骨組みにプラスする形でやるというのがいいと思います。

新田：本日は、お二人からお話を伺い、当社のCSRの根幹について再認識するとともに事業と一体化した当社独自の活動を深め継続していく重要性を感じました。ありがとうございました。

真のグローバル企業向け「守りのCSR」を強化

コーポレートガバナンス、リスクマネジメント体制・コンプライアンス体制の構築と運用は、健全で持続的な発展のための経営基盤であり、いわば「守りのCSR」といえます。

当社は、取締役7名のうち3名が社外取締役、監査役3名のうち2名が社外監査役であり、社外の視点から経営の監督を担っています。「社外役員協議会」を設置し、社外役員の関心事や問題意識について、現場の責任者と議論をする場を設けており、これが取締役会の議論の活性化につながっています。

また、代表取締役社長と社外取締役3名で構成する「コンプライアンス・ガバナンス委員会」を設置し、グループ横断的なリスクマネジメント体制の構築と運用を監督しています。さらにクライシス・トレーニングを実施し、リスクマネジメントの実効性を定期的に見直すよう心がけています。

このように、当社は完成度の高い制度を運用していると思います。しかし、当社グループの事業は益々発展し、近年は海外の売上が国内を上回り、名実ともに「グローバル企業」になりました。この発展に伴い、対応しなければならない新たな課題もあります。たとえば情報管理に関しては、当社は国内ではプライバシーマークを取得していますが、GDPR(一般データ保護規則)などの海外法規への対応を更にレベルを上げるよう努めています。

「守りのCSR」をさらにブラッシュアップすることで、真のグローバル企業として持続的に発展していくことを期待しています。



株式会社アデランス
社外取締役
高野 一彦
・関西大学 社会安全学部・大学院
社会安全研究科 教授・博士(法学)
・日本経営倫理学会 常任理事
・経営倫理実践研究センター (BERC)
上席研究員
・日本経営倫理士協会 理事

アデランスのCSR活動の独自性について

当社のCSR活動の独自性について、改めて整理してみようと思います。

CSRという概念は、ヨーロッパの「企業の成長は地球との共生にあり、地球環境を無視した経営には持続性は担保されない。」という考えから始まったため、多くの企業は活動の基軸を地球環境の保護に置き、事業活動を考える際に、地球温暖化の回避、二酸化炭素の低減などを徹底することで、「企業としての社会的責任」(CSR)を果たすことに取り組み始めました。

しかしながら、「地球環境の保護」というあまりにも大きな目標を活動の基軸においてしまうと、自社の日々の営業活動とは結びつかず、「営業活動は営業活動、CSR活動はCSR活動」と2つの活動が別のもので対立することが起きてしまいます。

そういった状況を避けるため、当社では、自社の営業活動の中から「社会的価値を持った活動」を洗い出し、その活動を「企業の社会的責任」として長く継続できるような工夫をしました。その結果、当社の象徴的な「愛のチャリティ」「病院内ヘアサロン」「フォンテーヌ緑の森」「舞台芸術向けウィッグ」「新毛髪素材の開発」といったCSR活動は、営業現場と一体化して成り立ち、継続性を実現しています。

ここに当社の独自性があります。これからも営業現場に基軸を置いた独自のCSR活動を推し進めていければと思います。



株式会社アデランス
執行役員
グループCSR広報室 担当
箕輪 睦夫

CSR 広報活動

アデランスグループの CSR 活動や取り組みを多くの方に知っていただくため、イベント等での講演、新聞等からの取材、書籍へのケーススタディの執筆、学術論文での研究対象としての協力などが進んでいます。

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
アナリスト・投資家向けセミナー	1回	1回	8回	3回	2回	3回	2回	2回	2回
企業・一般向けセミナー	1回	2回	3回	10回	7回	1回	3回	3回	1回
大学での CSR 特別講義	0回	2回	11回	8回	9回	12回	9回	8回	4回

※2019年8月現在

講演など

レスター大学、ローズ・ハルマン工科大学、ロチェスター工科大学留学生へのCSR講義



2019年7月16日金沢工業大学にて、同大学の海外提携校で工学技術や日本文化を学びに来た、英国のレスター大学をはじめ、米国のローズ・ハルマン工科大学、ロチェスター工科大学の留学生26名を対象に、CSR講義を行いました。

イギリスの中西部にある国立の名門のレスター大学は世界トップクラスの研究を誇り、当社は同大学で、2016年から3年連続で日本企業初となるCSR講義を行った縁があります。また、今回は、少数精鋭の教育で全米工科大学の中でも評価の高いインディアナ州のローズ・ハルマン工科大学、優れた大学院研究と充実した施設で知られる、ニューヨーク州のロチェスター工科大学の留学生にまで広がり、自社の強みを社会で生かす当社独自のCSR活動を説明いたしました。



株式会社アデランス 執行役員
海外事業本部 副本部長
グループCSR広報室担当
箕輪睦夫



株式会社アデランス
海外事業本部
グループCSR広報室担当
生長陽輔

当社執行役員 海外事業本部副本部長 グループCSR広報室担当の箕輪睦夫が「Strategic CSR by Integrating with Core Business」のタイトルで、日本で1750年代から伝わる商人哲学「三方よし（売り手よし、買い手よし、世間よし）」の考え方を文化背景とともに紹介しました。当社のCSR活動も三方よしを原点としており、三方全てが笑顔になる、まさに事業と一体化したCSRであるということ、ポジティブな事例とともに紹介しました。また、海外事業本部長の生長陽輔が、「Our Unique CSR Method」のタイトルで、当社のCSR活動を取り上げた様々な記事の広告換算値を基に、CSRの経済的価値について説明をしました。

講義に参加した方からは、「ビジネスは単に儲けるだけではなく、社会に笑顔を広げることができることを気づく良い機会になった」「西洋でよく知られているビジネスの考え方に基づいた実践例が紹介されていて、講義全体を通して大変有意義だった」「フォントナー緑の森の仕組みに興味深かった。将来に渡り持続可能な取組みだと思った」「アデランスの製品が人生に影響を与えるものであることに感銘を受けた」など、多くの感想を頂き、講義終了後も、多くの質問が飛び、当社のCSR活動に対する興味の深さを感じるようになりました。

会社紹介

トップメッセージ	1
会社概要/業績ハイライト など	2
沿革	3
国内事業	5
海外事業（米国）	7
海外事業（アジア/欧州）	9
グループ生産拠点	11

目次

特集

アデランスのSDGs	13
象徴的な活動	
社会・地域貢献	15
お客様の安心・安全	17
環境への取り組み	19
学術・文化活動	21
ステークホルダー・ダイアログ	23
CSR広報活動	25
目次・編集方針 など	26

編集方針

「CSRコミュニケーションレポート2019」発行にあたり

今回は、日本をはじめ世界に広がる当社グループの事業概要を理解いただきやすくするため、従来よりも会社案内の要素を増やし、内容を拡充しました。また、当社グループにおけるSDGsの取り組みについて特集として掲載いたしました。

当社は、本誌「CSRコミュニケーションレポート」を、社内外の皆様の声を取り入れながら、独自性を持った価値創造型CSRをさらに進めていくための重要なツールと位置づけています。

お客様、取引先様、社員、地域社会などのステークホルダーの皆様におかれましては、本書をご高覧の上、当社の社会的価値の創造についてご理解いただくと共に、率直なご意見や今後当社に期待されること、ご要望等を頂戴できれば幸いです。

CSR 重要課題

あらゆる種類の組織のための社会的責任に関する手引である国際規格ISO26000が2010年に発行されました。持続可能な社会を目指す当社の活動（本紙「象徴的な活動」ページ）は、ISO26000の7つの中核主題に基づき分類しています。

- 7つの中核主題 —
- 組織統治 人権
- 労働慣行 環境
- 公正な事業慣行 消費者課題
- コミュニティへの参画及び発展

また、今回より、国連総会で2015年に採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」の目標達成にどのように結びつくかを理解するため、当社の主要な活動と関係するSDGsを併記しました。

報告書の対象期間と範囲

対象期間:2018年3月-2019年2月
ただし、特徴的で継続的な活動についてはこれ以降の最新の情報もご紹介しています。

対象範囲

株式会社アデランス及び主要グループ会社を含みます。

企画・制作

株式会社アデランス グループCSR広報室
編集長 玉橋美咲
アドバイズ・サポート:ツバルの森

CSR 情報開示の体系

アデランスグループの様々な活動を、ステークホルダーの皆様へ情報を適切にお届けできるよう、「冊子版」と「Web」の形式でまとめています。

冊子版



冊子版では、「CSRコミュニケーションレポート」「笑顔のために」の2誌において、特徴や進展のある活動内容をクローズアップして紹介しています。

Web



冊子で紹介していない活動内容や数値・データ等を集約し、開示しています。

<https://www.aderans.co.jp/corporate/csr/>

発行年月と次回発行予定

発行日:2019年8月

次回:2020年9月予定

本書に掲載されている社名、団体名、商品名またはサービス名等は、各社・団体の商標または登録商標です。なお、本文等では、「TM」「®」は明記しておりません。